

論文番号 236

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名(原題/訳)

Sweet taste preference as a risk factor for alcohol dependence

アルコール依存症危険因子としての甘味嗜好性

執筆者

Kranzler, H. R., Sandstrom, K. A., Van Kirk, J.

掲載誌(番号又は発行年月日)

Am J Psychiatry, 158(5)813-5 (2001)

キーワード

アルコール摂取、アルコール依存症、診断、遺伝的因子、疫学的調査

要旨

以前からアルコール依存症の人は甘味に対して強い嗜好性を示すことが報告されている。本研究では甘味溶液の嗜好性がアルコール依存症における危険因子となりうるという仮説について検討した。122人の非アルコール依存症の人を対象とした。58人はアルコール依存症であった過去があり、62人は依存経験がない。それぞれの被験者に一連のスクロース溶液の甘味の強度と嗜好性の程度についての評価をしてもらった。その結果、被験者は正確にスクロースの強度を比較することができた。アルコール依存症を過去に持つ人、そうでない人ともに、0.42%スクロース溶液を好んでいた。この結果は、甘味に対する嗜好性はアルコール依存症の危険因子となるというこれまでの結果に反するものである。以前にアルコール患者の間で観察された甘味に対する嗜好性は一連の慢性的なアルコール摂取またはそれに付随する他の因子の影響に因るものかもしれない。